

感染性胃腸炎に注意しましょう!



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 5	3	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 123	81	ヘルパンギーナ	↘ 6	8
咽頭結膜熱	↘ 36	41	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 49	53
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 105	89	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 508	486	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 21	29
水痘	↘ 15	27	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 22	20	無菌性髄膜炎	↘ 0	1
伝染性紅斑(りんご病)	↗ 107	89	マイコプラズマ肺炎	↘ 4	10
突発性発しん	↗ 34	29	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロウウイルス)	↗ 2	0

報告が多い感染症  
 感染性胃腸炎  
 RSウイルス感染症  
 伝染性紅斑

大きな流行が発生又は継続しつつある地域  
 感染性胃腸炎 : 菊池  
 伝染性紅斑 : 菊池、熊本市、天草、山鹿

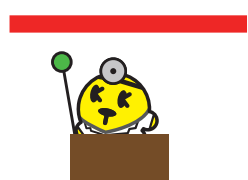
保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロウウイルス)
熊本市保健所	3	35	9	46	119	5	11	46	16		1	9		16			2		2
山鹿保健所	1			1	39			4	1			6	*	*					
菊池保健所	1	30	7	16	107	5	7	28	4		2	7							
阿蘇保健所					6								*	*			1		
御船保健所		1			31			1					*	*					
八代保健所		10	2	7	37	3		7	3										
水俣保健所		3	1	1	12			2	1				*	*					
人吉保健所		9			21	2		5	4			10	*	*			1		
有明保健所		26	10	8	58		3	1	2			12		5					
宇城保健所		9	2	7	40			4	2			5	*	*					
天草保健所			5	19	38		1	9	1		3								
計	5	123	36	105	508	15	22	107	34	0	6	49	0	21	0	0	4	0	2

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
小児科定点年齢	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	123	8	34	47	22	3	8	1	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	36	0	8	11	1	5	4	5	2	0	0	0	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	105	1	0	1	5	14	9	12	15	14	3	11	12	2	6						
感染性胃腸炎	508	2	21	57	52	60	44	46	36	27	25	23	56	17	42						
水痘	15	0	0	3	1	2	3	1	1	0	1	0	2	0	1						
手足口病	22	0	2	10	4	0	3	2	0	1	0	0	0	0	0						
伝染性紅斑	107	0	1	3	4	7	20	16	18	12	14	4	7	0	1						
突発性発しん	34	0	15	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	6	0	1	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	49	0	0	3	6	3	10	8	6	3	2	3	4	0	1						
眼科定点年齢区分	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	21	0	1	1	1	0	0	0	4	1	1	0	0	0	3	0	4	2	2	1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	4	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(ロウウイルス)	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

感染性胃腸炎に注意しましょう



今週の感染性胃腸炎の報告数は508件と、2週連続で増加しています。保健所別では、菊池からの報告が多くなっており、警報レベルが継続しています。

感染性胃腸炎は、様々な細菌、ウイルス、寄生虫が原因でおこる感染症です。年間を通して患者の報告がありますが、例年初冬から増加し始め12月頃にピークを迎えます。12月頃のピークは大半がノロウイルスによるもので、春にロタウイルスが流行し、夏期には腸炎ピリオなどの細菌を原因としたものが流行する傾向にあります。患者年齢は、幼児及び学童期が中心となっています。

ノロウイルスは手指や食品などを介して感染するといわれています。主な症状は、おう吐、下痢、腹痛などです。健康な方は軽症で回復しますが、お子様や高齢の方などでは重症化することがあるので、注意が必要です。特に、学校、保育所、高齢者施設等での集団感染やノロウイルス等による食中毒の発生が懸念されますので、調理従事者の健康管理、調理や食事の前、トイレの後などに、時間をかけて丁寧に手洗いを行い、予防に努めましょう。

予防方法

1. 食事の前やトイレの後などには、時間をかけて丁寧に手を洗きましょう。
2. 下痢やおう吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
3. 胃腸炎患者に接する方は、患者のふん便や吐ぶつを適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。汚染された場所の消毒には次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)が有効であるとされています。
4. お子様や高齢の方など抵抗力の弱い方は、加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱して食べましょう。

※熊本県のホームページ「感染性胃腸炎の感染予防に努めましょう」  
[http://www.pref.kumamoto.jp/kiji\\_13801.html](http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_13801.html)